

成人及び結婚可能年齢の捉え方とアイデンティティ及び精神的健康との関係

田中道弘(埼玉学園大学)

キーワード: 成人・結婚年齢, アイデンティティ, 精神的健康

問題と目的

民法改正により2022年から成人年齢を18歳に引き下げ、女性の結婚可能年齢を18歳以上に引き上げるようになる。このような政策に対する青年の賛否、及び成人年齢の捉え方の違いは、アイデンティティの確立の程度や精神的健康感に伴う感情と、どのような関係があるか明らかにすることを目的とした。

方 法

調査対象者 関東圏の4つの大学と2つの看護系専門学校で18歳~23歳の学生231名(平均19.4歳)。男性85名(平均19.4歳)、女性146名(平均19.4歳)。調査時期は2018年6月~12月にかけて実施した。内容①18歳での成人に対する賛否。②女性の結婚年齢18歳へ引き上げに対する賛否。③適正と思う成人年齢。④自己肯定感尺度 ver. 2(田中, 2005) 8項目4段階評定, ⑤アイデンティティ尺度(下山, 1992) 20項目4段階評定(基礎, 確立の下位尺度があり, 基礎は自己の安定が得られず不安や孤独におそわれる気持ちを測定) ⑥時間的展望体験尺度(白井, 1994) 18項目5段階評定(下位尺度は4つ), ⑦18歳成人, 女性の結婚可能年齢18歳以上に対する考え(自由記述)であった。本研究では⑦以外を分析対象とした。

結果と考察

①18歳成人に対する賛否は, 賛成88名(36.8%), 反対146名(63.2%)であった。性別による違いは賛成(男性: 40名(47.1%), 女性: 48名(32.9%), 反対(男性: 45名(52.9%), 女性: 98名(67.1%))であった。 χ^2 検定の結果, 人数の偏りに有意差が確認された($\chi^2(1)=4.6, p<.05$)。②女性の結婚年齢18歳へ引き上げに対する賛否では, 賛成210名(90.9%), 反対21名(9.1%)であった。性別による違いは賛成(男性: 76名(89.4%), 女性: 134名(91.8%)), 反対(男性: 9名(10.6%), 女性: 12名(8.2%))であった。 χ^2 検定の結果, 人数の偏りに有意差は確認されなかった($\chi^2(1)=.37, n.s.$)。③適正と思う成人年齢は, 15~17歳: 6名(3%), 18歳: 56名(24%), 19歳: 1名(1%), 20歳: 142名(61%), 21歳: 1名(1%), 22歳: 14名(6%), 22-25歳: 5名(2%), 26-30歳: 2名(1%)であった。④自己肯定感尺度 ver. 2の因子的妥当性及び信頼性は, 主成分分析の結果, すべての項目が第1主成分に.847~.667までの範囲でまとまり信頼性も

高かった($\alpha=.874$)。平均点は22.1点($SD=5.3$)であった。⑤アイデンティティ尺度及び⑥時間的展望体験尺度は, よく使用される尺度のため信頼性のみ確認した。⑤アイデンティティ尺度は, アイデンティティ基礎下位尺度($\alpha=.842$) (平均得点26.2点, $SD=6.1$), アイデンティティ確立下位尺度($\alpha=.873$)

(平均得点26.8点 $SD=5.6$) ⑥の時間的展望体験尺度は, 現在の充実感下位尺度($\alpha=.768$), 目標指向性下位尺度($\alpha=.833$), 過去受容下位尺度($\alpha=.782$), 希望下位尺度($\alpha=.831$)であり, いずれも高い信頼性が確認された。全体の結果では, ①18歳成人に対する賛否と各尺度の関係では, アイデンティティ基礎下位尺度のみ, 賛成群の平均得点(25.2点)と反対群の平均得点(26.8点)の間に有意差が確認された($t(229)=2.0, p<.05$)。②女性の結婚年齢18歳へ引き上げに対する賛否と各尺度の関係では, アイデンティティ確立下位尺度のみ賛成群の平均得点(26.5点)と反対群の平均得点(30.0点)の間に有意差が確認された($t(229)=2.6, p<.05$)。③適正と思う成人年齢との関係では, A(15歳~19歳), B(20歳), C(21歳以上)の3群と各尺度の平均得点を一元配置の分散分析により比較したところ, アイデンティティ基礎下位尺度との関係にのみ有意差が確認された($F(2, 228)=4.65, p<.05$)。多重比較(Tukey)を行ったところ, A群(24.3点)よりもB(26.8点)・C群(27.8点)の方が平均得点が高かった($MSe=36.1, p<.05$)。

以上の結果より, 18歳成人については反対群がアイデンティティ基礎下位尺度の平均得点が有意に高く自己の安定が得られておらず, 女性の結婚年齢引き上げについては反対群の方がアイデンティティを確立している, 成人年齢は, 適正だと思ふ年齢が高い群の方が, 不安定な自己像を有している可能性が示された。

引用文献

- 下山晴彦(1992). 大学生のモラトリアムの下位分類の研究—アイデンティティの発達との関連で—教育心理学研究, 40, 121-129.
白井利明(1994). 時間的展望体験尺度の作成に関する研究—心理学研究, 65, 54-60.
田中道弘(2005). 自己肯定感尺度の作成と項目の検討—人間科学論究, 13, 15-27.